

かねざわ 第49号

平成26(2014)年5月

・ 次の8月は50号記念号です。
原稿を募集しています(P16)

目次

“わ”の会方針

2 新年度を迎えるにあたって

“わ”の会代表 今井 鎮夫

分科会今年度方針

4 「寺社を巡る会」 代表 松本 和俊

5 「古文書を読む会」 代表 真田 雅行

5 「ふれあいの道歩こう会」 代表 小俣 悦男

6 「懐かしの映画を観る会」 代表 佐藤 晃

7 「浮雲俳句会」 代表 北野 清市

8 「パソコンを使いこなす会」 代表 林 洋

運営委員新任の挨拶

9 運営委員就任の挨拶 江口 正彦

9 運営委員新任挨拶 鈴木 秀幸

顧問退任の挨拶

9 顧問を辞するにあたりご挨拶申し上げます
小俣 悦男

運営委員退任の挨拶

10 運営委員退任の挨拶 吉田 博

10 運営委員退任挨拶 金久保常二

11 運営委員退任にあたって 清水 考照

11 運営委員退任のご挨拶 高橋 康雄

運営委員会からのお知らせ

12 「フォーラム KANAZAWA 2014」参加報告

13 会員募集結果

13 大橋新太郎碑と案内看板のお披露目

学習会

15 学習会の概要とアンケート

編集委員会からのお知らせ

16 重ねて、会報50号記念号の原稿募集!

分科会からの便り

17 「懐かしの映画」鑑賞録 No. 14 佐藤 晃

19 「浮雲俳句会」抄録 No. 25 北野 清市

23 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 No. 5
小俣 悦男

26 「古文書分科会からのたより」 真田 雅行

28 行事予定



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル: yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

新年度を迎えるにあたって

“わ”の会代表 今井鎮夫

【挨拶】

“わ”の会は16年目の新年度を迎えることになりました。

会員諸兄諸姉におかれましては、ご健勝にてこの5月をお迎えになられたことと拝察いたします。ほとんどの方が会員の継続手続きをなされ、また元気なお姿をお見受けできるのは、こよなく嬉しいことでございます。

この間、いろいろなこともありましたでしょ

うが、“わ”の会がかくも賑々しく存続し、かつ充実が図られてきたのは、会の名前のおり会員皆さまの「わ」によるご協力があったればこそと感謝してやみません。代表になって2年目になりますが、出来る限り会の発展のために努めてまいりたいと念じておりますので皆さまよろしくご教示のほどお願い申し上げます次第です。

【昨年度の概要】

昨年度の大きな印象は学習会開催日の天候でした。総会を兼ねた第1回学習会は大雨、探訪は台風接近中、公開歴史講座は猛吹雪とあっていい大雪のなかの開催でした。個人的にはハレ男と思っていたのですが、見事に覆りました。そんな荒天でも、第1回は80名超、探訪は50名、公開歴史講座は40名超の会員が参加してくださいました。特に公開歴史講座は、参加者は講師の先生と運営委員だけかもしれないという中止ギリギリの状況だったと思います。身の危険を感じながら足をお運びいただいた会員の義理堅さには頭が下がりっぱなしです。で

もあのような大荒天には「中止」できる準備をしておく必要を感じています。

もうひとつは、二つの15周年記念事業をおこなえたことです。「大橋新太郎生誕150年」にあわせた講演とパーティーを、区役所並びに県立金沢文庫のご協力を得て110名を超える方々に参加していただき、成功裡におわりましたことに御礼申し上げます。そして『新版かねざわの歴史事典』の重版（第三刷）も、明らかな誤植を訂正し300部出版できましたことは、当会の実力を示すものではないかと自負するところです。

【今年度の方針】

会員皆さまの豊富な経験と知識に耳を傾けながら、「金沢の歴史」を学ぶということに軸足を置いていくことは今年度も不変です。

会則の第1条（目的）に、「金沢の歴史」を学ぶ事を軸として、豊かな生きがい作りを推進する。」とありますが、このなかに「地域貢献」という文言を盛り込めないか模索していきたいと考えています。今総会で、「事典編集委員

会」を常設委員会として設置したく、それに伴い会則にその記載を挿入することを提案いたしますが、当会の事典活動は地域への貢献と結びつくと思うからです。皆さまのご理解を賜りたく存じます。

そして区民との交流の一端になればとの思いで、定例学習会にビジター参加を積極的に呼びかけてみたいと考えていますので、その宣伝、

告知方法など良い案をお教えいただければ幸いです。

【学習会】

5月総会時の学習会は「野口英世と横浜金沢、そして私」と題して当会の第3代代表を務められました高橋好一氏の講演です。永年、長浜にある野口英世ゆかりの細菌検査室の保存と活用に関わってこられた氏ならではの意義深い話がきけることでしょう。“わ”の会会員の講演は大歓迎ですし、基本柱のひとつでもあります。

6月と7月は、金沢の歴史的肝ともいえるべき「金沢北条氏」をテーマにします。来年度も同テーマで2回にわたって講座を設けるつもりです。実泰、実時、顕時、貞顕、貞将の5代を扱い、その視点から鎌倉時代が俯瞰できればと思っています。講師は当会初登場の東洋大学講師の細川重男氏です。著書も数多くありどのような講演になるか今から楽しみです。

8月は恒例の県立金沢文庫での訪問講座です。特別展「動乱の金沢～南北朝から戦国時代まで～」の展示に合わせた講演で、講師は学芸課長の西岡芳文氏です。ご期待ください。

9月は、慶珊寺ご住職の佐伯隆定氏による「慶珊寺と富岡の歴史」です。佐伯住職は高等

学校の校長も勤められた学識豊かな方で、昨春秋に御著『武州富岡史話』を出版されています。「隠れ里」だったという富岡の歴史を豊富な史料に基づいて詳らかにして下さることでしょう。

10月は探訪です。9月の講座とリンクして、「富岡の今昔を巡る」というようなテーマで具体的コースを選定中です。慶珊寺や南部市場などの組み合わせで、いまむかしを巡ればと考えています。

11月は「古文書よりみた泥亀新田開発」です。講師は分科会の「古文書を読む会」代表の真田雅行氏で、2度目の講演になります。前回は、古文書を読むための手ほどきでしたが、今度は古文書を材料として泥亀新田の歴史的一面に切り込んでいただけたと思います。古文書を解説する面白さを味わえることでしょう。

来年2月の公開歴史講座は「太田道灌と金沢」で、講師は盛本昌広氏です。太田道灌は、室町時代の相模国にとって最重要人物の一人だと思っています。金沢との関係はどうだったのでしょうか。盛本講師の熱弁に期待してください。

【継続会員と新会員】

継続された会員は、114名（男性97名、女性17名）で、継続率は94.2%と高率です。退会された会員は7名（男性6名、女性1名）です。この数字は運営委員会にとって心強いものです。

新会員は12名（男性9名、女性3名）です。

学習会場の関係から応募者は抽選となりました。60代の方がほとんどで、今後の当会の担い手になっていただけるのではないかと期待大です。

従って今年度の会員数は126名（男性106名、女性20名）になります。

【運営委員会】

4名の運営委員と1名の顧問が退任します。新任の運営委員は2名、総勢8名で会を運営していくこととなります。

会則7条（役員）に、運営委員10数名と定

められていますが、その数に届かず各運営委員に負担が増大するのは明らかです。そのため、定例学習会の白板横の垂幕設置は今期見送りとしました。そのほかに、毎回皆さまにお配り

していた「横浜郷土史団体連絡協議会 News」は、希望者には受付でお渡しすることにいたします。また、来年3月予定の「フォーラム KANAZAWA」に参加するかどうかも保留にしました。

運営委員は2年目の会員の方に積極的にお願いするとかいろいろ方策を考えますが、学習会当日の会場整理などには皆さまのお手伝いをお願いする次第です。

【記念事業】

会報「かねざわ」が次号で50号になります。それを記念して、会報編集委員会が今までの会報をCD化するなどの企画を練っています。

分科会「懐かしの映画を観る会」が創設10年を迎え、その記念に特別上映会ないし今まで

上映した映画解説のCD化などの企画を練っています。

記念事業は、皆さまの交流の場にもなると考えていますので、運営委員会としては全面的にバックアップして参ります。

【分科会】

当会が外部から高評価を得ているのは、6つの分科会活動が活発であるのがその要因の一つだと思います。「学習会」と「分科会」、まさに両輪がスムーズに回っていることが他の会との違いであり、強みであります。

今期は「懐かしの映画を観る会」が10周年

を迎え、来期は「浮雲俳句会」が10周年を迎えます。

喜ばしい限りです。そして、さらなる当会の発展のために新しい分科会の設立を願っております。

分科会今年度方針

「寺社を巡る会」

代表 松本 和俊

「寺社を巡る会」は平成14年5月に“わ”の会最初の分科会として会員15名で発足しました。今では会員は45名となっています。

当初は金沢区内や鎌倉の寺社および史跡を訪ねることが中心でしたが、次第に活動範囲を広げて金沢区や鎌倉周辺はもとより、旧東海道の宿場にある寺社や史跡も訪ねました。24年度から25年度は金沢札所を訪ねました。26年度から27年度初頭にかけて、12回に分けて三浦三十三観音の霊場を訪ねます。

三浦三十三観音は、三浦半島全域に点在しており、鎌倉時代初期に長井（現横須賀市長井）

に住む源義経の家臣・鈴木三郎重家が飢饉に苦しむ人々を救済するため、三浦半島の三十三の霊場に参拝したことに始まるといわれています。

午年には本開帳、丑年には中開帳が行われ、秘仏が開扉されます。今年には本開帳に当たりませんので、4月18日から5月18日まで開扉されません。当会の日程と合わないのが残念ですが、念のためお知らせいたします。当会では、三浦三十三観音の近くにある寺社や史跡も訪ねることにしています。

また、酷暑の8月は会員の健康に留意して探

訪はお休みして座学とし、五木寛之の「百寺巡礼」のDVDを鑑賞します。

厳しい残暑が予想される9月は、涼を求めて大山阿夫利神社下社、大山寺、相模国三宮である比々多神社を訪れます。

毎年11月下旬に実施しているバスによる特別探訪は、日蓮宗の総本山である身延山久遠寺と上澤寺を訪れます。紅葉の時期を勘案して10月の下旬に実施することになっています。

「古文書を読む会」

代表 真田 雅行

当会は年度を1～12月としていますので既に4分の1経過しています。

例年通り月2回(年24回)の学習を二つに分け、第一学習は地元の古文書で江戸時代の釜利谷宿村の「布川家文書」を、又第二学習は地元こだわらず面白そうなものを選び、今年は江戸時代のスキャンダル「絵島・生島事件」を読んでいきます。

宿村は金沢入江(泥亀新田)に面し、禅林寺の坂本村と赤井村に隣接して3カ村で釜利谷を構成していましたが、江戸城の紅葉山の東照宮の威光をバックにする坂本村とは領主が異なり、時には利害が一致しないこともあり、泥亀新田開発では通船をめぐって利害一致したり、意見が分かれたりして、開発者の永島家も大変苦勞した様子が古文書によく記されています。

絵島・生島事件は6代将軍や幼少の7代将軍

の時代に、徳川家の菩提寺増上寺への代理墓参した大奥の女中トップの絵島が、帰りに銀座の木挽町での芝居見物をし、遅刻して帰城したことに端を発し、これに幕府内の権力争いと将軍跡継問題がからんで、一大事件に発展し、絵島は信州高遠に永久禁固となり、その他千人以上が罰せられたものです。

第一、第二学習共に1年をかけて学習します。

なお、当会では古文書未経験者も歓迎し受け入れていますので、今年も初心者のための「基礎講座」を毎回開催(本学習前1時間、年24回)しています。今年の教材は「継母の継子いじめ」の話と十返舎一九の「東海道中膝栗毛」の続きです。

これにより初心者でも気楽にメンバーに参加出来るよう工夫しています。

「ふれあいの道歩こう会」

代表 小俣 悦男

お陰様で創設来11年目に入っております。今年もチームワークを大切にしながら、安全安心を第一に考えています。「関東ふれあいの道」144コース・1665kmを昨年1月に踏破しました。2月から会員のアンケートをもとに選定した「独自コース」で再スタート、2年目になります。「独自コ

ース」は関東周辺のハイキングコースや軽登山コースと「関東ふれあいの道」のアンコールコースを、花や紅葉などコースごとのベストシーズンを勘案して設定し、定例会に実施しています。会員数26名に対し、定例会への出席率は80パーセント弱です。今後もこのラインは維持していきたくコース選定に配慮してまいります。

＜27年度、28年度のコースを選定＞

① **「独自コース」の選定**にあたっては、コース選定委員会を設けております。この委員会が会員の「行きたい」、「素晴らしいので仲間を案内したい」などの観点からアンケートでコースを募り、要望を取り入れながらコース選定を行っています。因みに、平成26年1月～26年12月のコースを難易度で表すと、1(易しい):3コース 2(ふつう):5コース 3(きつい):4コースです。26名の平均年齢は72歳で80歳から65歳と年齢差があり、かつ、体力やさらには経験に差がありますので、このことを十分に考慮に

入れたうえで、定例会への出席率80パーセントを目安にして、大方の会員が納得のいく選定を行ってまいります。しかし一方で会員各自の日頃からのトレーニングや歩きこみに期待をかけております。

② **100回記念** 創設来10年余で定例会実施100回を6月に達成予定。よって、100回記念として、今までの総括と今後の展望や安全を第一とした定例会の実施計画の遂行について改めて話しあう機会を設けました。併せて記念パーティを行います。実施時期は7月末を予定。

「懐かしの映画を観る会」

代表 佐藤 晃

当会では毎年の観賞映画は、年間24本(これ以外に再観賞映画4本)とし、外国映画16本、日本映画8本と決めている。外国映画、日本映画ともそれぞれ半数は会員の投票で選び、残りは私が選ぶこととしている。その結果、決定した平成26年度の観賞映画は総会資料の通りである。選ばれた24本の映画は、公開当時、それぞれが評判になっていたり、高い評価をえていた作品ばかりで、私も、会員の皆さんと一緒に観賞できることを楽しみにしている。

外国映画は16本であり、会員投票の第1位は『黄昏』である。アメリカ、ニューイングランドの湖畔で毎年夏を過ごす老夫婦と、久しぶりにやって来た娘一家との触れ合いが暖かく描かれる。他の映画もオールド映画ファンに懐

かしい1930～1980年代の名作が10本並んでおり、公開当時に感じた印象と現在の印象と比較するのもまた、楽しいものであろう。最近私たちが高齢者が観ても楽しめる映画が増えてきた。そのうちのいくつかが入手できたので、観賞作品に加えた。『アーティスト』(12年)、『戦火の馬』(13年)、『レ・ミゼラブル』(13年)、『鉄の女・マーガレットサッチャー』(12年)。時代的には古いものから新しい作品まで幅広く網羅している。

日本映画では、『人間の条件第5部～6部』を最終回に挙げた。全6部、上映時間9時間33分の大作である。今回では、ソ満国境でソ連の戦車隊に蹂躪され全滅した関東軍の中で生き残った梶は捕虜となり、シベリアで厳しい重労

働にあえぐことになる。どんな状況下でも人間的に生きようとする梶の生き方を見極めたいと思う。日本映画の希望作品の第1位は『白い巨塔』である。骨太に社会悪に挑戦する山崎豊子の原作を硬派の山本薩夫が監督した。大学教授の選挙を巡り医学界の腐敗にメスを入れた力作である。モノクロ映画だけにかえて迫力がある。日本映画で楽しみな作品は55年作の『ここに泉あり』である。戦後、苦勞しながら設立した『群馬交響楽団』の誕生のいきさつが綴られる。50年以上見ていない映画だから再会が楽しみである。最近の映画として『大鹿村騒動記』を挙げた。長野県大鹿村に300年以上続く大鹿歌舞伎の公演を題材にした、笑いと涙の人情噺である。この映画公開時に主演の原田芳雄が亡くなり、その訃報が伝えられてから、観客が一挙に増えたという。

「懐かしの映画を観る会」も発足して今年で10年目を迎える。発足当初、クラシックといわれる映画は集中的に観てしまった。その後、再観賞の希望があっても、まだ観ていない映画の観賞が先で、見送られた経緯がある。年月の経過と共に会員も入れ替わり、再観賞の希望者が増えてきたので、昨年から再観賞映画を年間4本観賞することとした。しかし、会場の関係から2本立てで観賞することとしている。昨年、会員から再観賞作品のアンケートをとり、20本をリストアップした。昨年は『哀愁』、『誰がために鐘は鳴る』、『帰らざる河』、『カサブランカ』を観賞したが、26年度は『望郷』、『第三の男』、『グレンミラー物語』、『ローマの休日』の4本を予定してる。そのため26年度の観賞映画は28本となった。

「浮雲俳句会」

代表 北野 清市

本年度の「浮雲俳句会」の活動方針は、河川俳句へのトライと、動植物シリーズへのアタックとした。

① 河川俳句へのトライ

河川は、地表の水が集まって、土地の傾斜に従いながら、流れる陸上の水路である。

わが国の河川は、総河川数三万五千。このうち国が管理する河川（1級）と、市町村が管理する河川（準用河川）が、それぞれ40%。残りの20%が、都道府県が管理する河川（2級）である。

具体的には、ご当地神奈川や関東地方を中心に、10河川をピックアップしてゆきたい。

因みに、利根川（7月）・天の川（8月）・阿武隈川（9月）・相模川（11月）・多摩川（12月）・運河（1月）・酒匂川（2月）・信濃川（3月）・隅田川（4月）それに侍川（5月）を毎月の句会の兼題として、挑戦してゆく計画だ。

風光るライン川浴ひ城いくつ 一清

② 動植物シリーズへのアタック

昨年度は、「動物」に限定して、10動物にトライした。本年度は、「動植物」に範囲を広げ、加えて、積み残してきた大きな季題に再挑戦したい。

因みに、青鷺（7月）・虫（8月）・芒（9月）・枯蠶螂（11月）・みみずく（12月）・蠟梅（1月）・梅（2月）・亀（3月）・花（4月）それに万緑（5月）として、推進していきたい。

み吉野の西行庵に花惜しむ 一清

「パソコンを使いこなす会」

代表 林 洋

「パソコンを使いこなす会」では、パソコン操作でお困りの会員、パソコンをもっと上手に使用したい会員のためにノートパソコンを持ち寄って、みんなで問題点を解決することを目的として活動を進めています。具体的には、約20名の会員が集まって、次のような勉強をしています。

- 1) 基礎講座：自作テキストを使用して年賀状・地図・ピラ等の作成
- 2) 実用講座：雑誌記事を参考にしてパソコン操作・インターネット検索
- 3) 復習講座：パソコン教材を使用してWORD・EXCEL操作の復習

分科会設立から6年が経過しました。今まで所属した人の累計は38名で、その内、当初から参加している会員は10名になります。6年経てば小学校卒業です。パソコンやインターネットは、現代生活の必須インフラで、世の中の動きに取り残されないためにも義務教育を終えられるよう日々研鑽に努めて行きます。中途入学の新入会員大歓迎です。

区民活動センターの「サポット」や街の先生等での活動で、パソコンを使う上でのお困りご

とを持っておいでの方に会って、問題解決に尽力してきました。この時の経験から、当分科会でも“わ”の会会員の皆様のパソコンに関するお困りごとのご相談に取り組みことにします。具体的には次のような手順とします。

- 1) パソコンを使う上でのお困りごとの内容を具体的に連絡していただく。

連絡先メールアドレス：

hiro_hayashi@nifty.com

- 2) 問題の解決策を検討して分科会テーマとして適当であれば、検討する分科会の日を相談して決める。

- 3) 当日、分科会に来ていただいて会員とともに解決策を考え、パソコンを使って実行する。

この活動によって問題を解決するとともに、会員も情報共有して活動範囲を広げることができます。なお、分科会で取り上げることのできないテーマで必要性・緊急性あるものは、区民活動センター等で個別に解決策の検討を実施します。

以上、新しい取り組みへのご参加をお待ちしています。

運営委員新任の挨拶

運営委員就任の挨拶

江口 正彦

今年度より運営委員に就任させていただくことになりました。今年1月に「ふれあいの道歩こう会」に、この4月に“わ”の会に入会したばかりで、これから先輩諸氏の方々にいろいろご教授いただきながら運営委員会の一人として、15周年を経過しました“わ”の会のさらなる発展に役立てるよう努力する所存ですので宜しくお願いします。

私は、金沢区富岡西に11年、西柴に14年と

25年間在住しております。海や野山あり自然環境も良く、歴史的にも鎌倉時代からの匂いの漂うこの金沢区に居りますが、「金沢ぶらり散歩道」に記述されている内容を漠然と知る程度です。これから“わ”の会を通じて、金沢の歴史などを勉強し、孫にこの金沢の良さを伝えていければと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

運営委員新任挨拶

鈴木 秀幸

横浜市港南区に住み45年になります。港南区では自分に合うサークルが無く、金沢区の色々な会に参加（歴史・文学・寺院・神輿・・・）させてもらいました。

組織の高齢化・組織人員減少などで会の運営自体が出来なくなった組織がたくさんあります。そんな中である会合で“わ”の会の活動内容をお聞きし、歴史の勉強を基本からやり直したいと考えていた折に「金沢の歴史を学ぶ」基本理念に惚れて25年度より入会をさせて頂き会員となりました。

分科会には「パソコンを使いこなす会」に入

会させて頂きXPは卒業できるまでになりました。講師・メンバーにお世話になり感謝しております。分科会が6つもあり活動が活発に行われているのは組織がしっかりしているからです。

今年度、運営委員を務めさせていただきますがメンバーとして更なる“わ”会の発展・充実を図る為に（協議する・計画立てる・実行する・反省する）運営活動を進めて行きたいと考えて居ります。

どうぞ宜しくお願い致します。

顧問退任の挨拶

顧問を辞するにあたりご挨拶申し上げます

小俣 悦男

13年前に“わ”の会へ入会、と同時にお声をかけていただいたご縁で、即座に運営委員会へ

参加し、8年間運営委員として、4年間を代表として、直近の1年は顧問としてトータル13年間、会の運営に携わってまいりました。

昨年度の1年間は顧問としてやや客観的立場で毎回運営委員会へ出席しましたので、今井代表の穏やかな人柄と配慮の行き届いた運営を見てまいりました。今井代表の運営そのものを原点から見直して良きものは残し継続、一方で修正すべきものは修正する真摯な姿勢に、マンネリを排除し活力溢れる会の活動を継続する観点からも人の変わることの大切さを感じ取りました。このことから、代表の在任期間は2年2期で最大4年とした5年前の就任時の会則改正は正かったことを確信した次第です。

さて、創立16年目に入った“わ”の会が会

員の地域の拠り所としてますます欠かせない存在となってきたことを辞める人が少なく、応募者が定員を上回る事態からも察することが出来ます。今後も学習会と分科会活動を車の両輪として会の創立時の目的であります、「“金沢の歴史“を学ぶことを軸として、豊かな生きがい作りを推進する」を強力に押し進めていただけることを念じております。また、“わ”の会が引続き止まることないチャレンジャーであり続けることを願っております。

末筆ながら非力な私を13年間支え、かつ、ご協力いただいた会員の皆様方並びに運営委員の皆様方へ厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

運営委員退任の挨拶

運営委員退任の挨拶

吉田 博

平成23年、ある方の紹介で“わ”の会に入り、まだ何も分からないまま委員になることを強引に説得され承諾してしまい今日に至りました。当初より担当は庶務係とのことで特に学習会受付、会員出席表、委員会会議室の予約等、皆様の下支えのお手伝いをしてまいりましたが、幸い会の運営に精通した諸先輩にめぐまれ、ご指導頂きながら何とか庶務の仕事をこなすことが出来かなと思っております。

このたび私含め委員数名の方、いろいろな諸

事情により委員を退任しますが、残った運営委員のかたがたは大変ご苦勞することと思いません。これからは会員皆様にも自分も会の一員としての意識をもち一度は何らかのかたちで運営委員に参加して頂くことをお勧めします。

短い間でしたが今回運営委員を退任し今後も一会員として皆様と共に学習していきたいと思っております。

これまでの皆様のご支援ご指導とご協力を頂き心より感謝を申し上げます。

運営委員退任あいさつ

金久保 常二

平成23年度会員募集で入会して以来、4年御世話になっています。当初は入会して楽しく学ぼうと思っていました。ところが、程なく言葉巧みな話術に誘われて運営委員を引き受け

ました。想像以上のスケジュールと濃い内容密度でした。一年間の試用期間を経験して、正式な運営委員になりました。更に責任と負担が掛かる。時間的制約もあり、日程調整も難しい。

その都度のやりくりに苦慮しつつ戸惑いながらやってきました。

短い期間ではありましたが、顧みますと運営委員を仰せ付かった事で、有能なすばらしいメンバーに恵まれて、充実した貴重な経験をさせて頂いたのも事実です。

県立金沢文庫に於いて開催された 15 周年記念講座「大橋新太郎と金沢」では、118 名の大勢の出席者の中で、当日は慣れぬ司会も担当させて頂きました。また、探訪「追浜・夏島地区巡る」では、実行委員の一員として、ガイ

ド説明の担当職務を果たす事が出来ました。

しかしながら、会員の皆様にはお役に立てないと思いつつ、大変心苦しい中で、運営委員を退任させていただく事になりました。これまでの皆様からのご指導とご協力に対し、心から感謝をここに申し上げる次第です。

私は、運営委員は退任しても、会員として在籍させていただき、楽しく活動しながら見聞を広めて行きたいと思っています。

今後とも宜しく願い申し上げます。

運営委員退任にあたって

清水 孝照

運営委員を 3 年（庶務関係 1 年、会計 2 年）勤めましたが、この度私事で退任する事を申し出て承認して頂きました。

委員としては余り十分な事が出来なかったもので、申し訳ないと思っています。周りの皆様のご指導のお蔭でなんとか形だけは成り立ったか、頭数を揃えるのには間に合ったかなと思います。

運営委員の仕事は誰かがやらなければなら

ないので、その分他の方に負担が掛かる事になって申し訳ないと思います。会員の皆様には一度は委員になってその役割を経験して頂けると委員になったり、辞めたりがもっと気軽にできる様になって、或いは時間が空いた時に応援などの形で手伝って頂く等、皆で会を盛り上げる意識が高まるのではないのでしょうか。ぜひ、頭の隅に置いて頂くようお願いします。

運営委員会退任のご挨拶

高橋 康雄

わずか 1 年でこれからと言う時に、大してお役に立たず退任いたしますこと、大変申し訳なく心苦しい次第です。昨年暮れから眼、心臓が悪化し、さらに親の介護も始まりまして、身体的、時間的に厳しくなっていました。こんな状況では十分な活動が出来ず、皆様はじめ運営委員の方々にご迷惑をおかけすることとなりますので、退任をさせていただくことになりました。

短期間の運営委員でございましたが、運営委

員ならではのいろいろな事を学ばせていただきました。また当会の格調高い素晴らしさ、会員皆様の層の厚さに改めて感心した次第です。

これからも会員として引き続き勉強させていただき、お付き合いをさせていただければ幸いです。また例会時の受付、会場準備など補助要員としてお手伝いをさせていただければと思っております。これからもよろしくお願い申し上げます

「フォーラム KANAZAWA 2014」参加報告

今年のフォーラムは 3 月 8 日(土)10:00～15:30 に開催されました。昨年に引き続き天気には恵まれましたが、気温は平年より低くやや肌寒い一日でした。人出は昨年と同様多くの方が来場され、特に午前中の出足が好調で、“キラッとランド” あそびのひろばでは子供達の元気な声が響き渡っていました。

主催は「金沢区生涯学習交流会実行委員会」、共催は「金沢区役所」で例年と同じです。

2012 年から企画・運営・事業の実行は実行委員会、区地域振興課区民活動支援担当は補助金を出し、実行委員会に協力をすることになっています。

昨年に引き続き「フォーラム KANAZAWA」の対象団体を今までの生涯学習団体だけでなく金沢区民活動センターに登録している全ての団体に広げ、参加を呼びかけました。対象を 170 から 400 へ広げての 2 年目です（ここでの生涯学習団体とは平成 10 年前後に区の援助を受けて立ち上げた狭い意味での生涯学習団体をいう）。

今年の参加は 62 団体、内訳は体育室展示ブース及び“キラッとランド”に 39、多目的室等が 12、体験コーナー等 11 でした。ちなみに 2012 年 58、2013 年 71 でした。前年比やや減少です。来場者は集計結果報告が未だですが、イメージとして前年並み 500 人超、子供 50 超人くらい

で 600 人位ではと感じています。

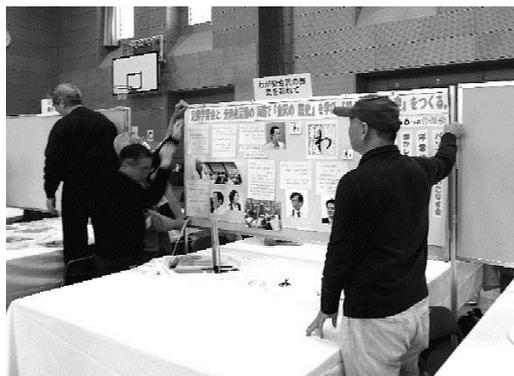
すべての参加者・団体が実行委員であり、かつ 9 つの作業チーム（多目的室、廊下ギャラリー、グループ室、“キラッとランド”、設営、広報、アンケート、会場案内、看板）の何れかに参加する事は従来通りです。“わ”の会からは運営委員 1 名が会代表として参加、アンケートチームを担当しました。

当日は運営委員全員が“わ”の会のブースで来場者との対応を行うとともに、会場設営・片付けに協力し、加えてアンケートコーナーでアンケート回収、プレゼントの抽選業務も担当しました。

“わ”の会の展示は展示台が長机から卓球台に変わり（後方のパネルは同じ）、展示スペースが大幅に増え、スペースが埋るかなと言う心配が有りました。しかし資料展示、会員募集らし、新版かねざわの歴史事典の販売紹介などで展示台の全面を使うレイアウトが出来、ホッとしました。

今年はいみねこ、絆、やまざくらが不参加でした。この事の影響もあるのか“わ”の会のブースへの来場者は例年よりも多かった様に感じられ、かつ入会希望者も例年に比して多かった。

“わ”の会会員の皆様のご来場も多数ありました。有難う御座いました。



“わ”の会ブース設営状況



会場の様子

会 員 募 集 結 果

昨年（平成 25 年）末段階で、121 名の平成 25 年度から今年度（平成 26 年）への継続会員数は 114 名（男 97 名、女 17 名）にのぼった。継続率は 94.2%である。これは高いパーセンテージであるだろう。退会者は 7 名（男 6 名、女 1 名）だった。

これを受けて、今年の新規会員募集人数を約 10 名として、募集チラシを作成し、2 月 1 日より各地区センター等 7 か所に配架した。既会員

の紹介者も含め、電子メールまたはハガキで 12 名の応募があった。募集締切りを「フォーラム KANAZAWA」の開催日である 3 月 8 日としたが、当日の会場で 4 名の応募があった。その結果、計 16 名の応募となった。抽選の結果、12 名が新会員となった。

従って、今年度の会員数は 126 名（男 106 名、女 20 名）である。新会員の平均年齢は 65.6 歳で、全体の平均年齢を引き下げる結果になった。

大橋新太郎碑と案内看板のお披露目

4 月 6 日午後 2 時から「大橋新太郎別荘跡の石碑と案内看板のお披露目式」が西柴団地内の金沢町第二公園（文末注および案内地図を参照）で行われた。当日は雨が時折激しく降る生憎の天気であったが、公園には 5、60 人が集まった。「大橋新太郎だからそのうちに雨は止むよ」との声があちこちから聞こえる中で、定刻になって傘を差しての式が始まった。開式の挨拶が終わり、石碑設置の発起人代表による経過報告が始まると雨が止み、来賓の挨拶、除幕、乾杯（ペットボトルのお茶で）、閉式、参加者各自による碑と案内看板の見学・記念撮影が無事に終り、参加者が帰路に着くと間もなくまた降り始め、急速に雨足が強くなった。来賓の挨拶では、西柴団地自治会長の上田利隆氏、県立金沢文庫学芸課長の西岡芳文氏、金沢区長の林琢己氏が登壇した。その他、会場には大橋新太郎のご親族、地元金沢の歴史研究家で今も大橋家と親交のある酒井宣子氏、金沢区選出の 3 名の現職市会議員の顔も見られ、天気共々「さすがに大橋新太郎！」の式であった。

2013 年は大橋新太郎生誕 150 周年、“わ”の

会創設 15 周年で、当会でも大橋新太郎をテーマに金沢区役所と県立金沢文庫のご協力を頂きながら記念講演会を実施した。記念講演会の中でも話があったように大橋新太郎は金沢町第二公園を含む一帯を別荘として所有していた。西柴団地には“わ”の会会員が多数住んでおられるが、いずれも団地の住人で“わ”の会第 2 代代表の太田耕藏さんが発起人代表、さらに当会第 5 代代表の小俣悦男さんと当会や分科会をいろいろな面で支えて頂いている吉田純一さんらが加わって総勢 10 名の発起人会が発足し、大橋新太郎生誕 150 周年で区内各所で関心が高まっているこのときが、西柴団地と大橋新太郎の繋がりを形に残すチャンスと考えて碑を建てることになった。太田さんらの発起人会は、資金の捻出のための協賛金を募る活動、設置場所確保のための周辺住民や区役所、土木事務所との交渉を精力的に推進。“わ”の会にもお話があり、運営委員会で審議の結果、5 口の協賛を行った。区役所は案内看板を設置してバックアップすることになった。その結果がこの日の「大橋新太郎別荘跡の石碑と案内看板の

お披露目式」であった。なお、“わ”の会からは、発起人となっている3名はもちろん、その

他に西柴団地および近隣在住の会員7～8名が式に参列した。

発起人代表太田耕藏さんの後日談

大橋新太郎の事蹟を後世に伝えていく石碑が、皆さんの協力によって比較的短い期間で完工できたのは、まず、資金集め、役所との折衝を念頭をお願いした発起人がまとまって楽しく活動できたこと、次いで、小俣さんを中心に地元住民に大橋新太郎という人物を知ってもらうために、自治会だよりへの2か月に亘る特集記事の掲載、自治会ホームページへの特集記事掲載、手づくりの講演会開催など広報に力を注いだこと、更には、資金集めは企業・団体に頼らず広く浅く一口千円の個人協賛金によることにより多くの住民の協力が得られ、又、住民による活動に共感した区役所の理解と支援が得られたことによるところ大であり、本当にうれしく思っています。最後にマスコミにも神奈川新聞、タウンニュース、JCNよこはま、市長記者会見等で大きく取り上げていただき、大橋新太郎について知ってもらう機会が増え、街おこしにいくらか貢献できたのではないのでしょうか。

注) **西柴団地の区域と大橋新太郎別荘の関係**：西柴団地の全体は、西柴一・二丁目のほぼ全区域、西柴三・四丁目の全区域、金沢町・柴町の一部区域で構成され、西武鉄道グループが開発した団地である。大橋新太郎の別荘は西柴団地内の金沢町・柴町の一帯にあった。



石碑と案内看板



金沢町第二公園の案内地図

学習会の概要とアンケート結果

第9回公開歴史講座「東京湾をめぐる小田原北条氏と房総勢力」

開催日：平成26年2月8日（土）

会場：能見台地区センター 多目的室

講師：青山学院大学講師 真鍋 淳哉 氏

出席：44名（内ビジター4名） 会員出席率 33%

概要

時ならぬ大雪で開催が危ぶまれたが、熱心な会員のお蔭で何とか無事に開催できた。心配して一番で駆けつけられた真鍋先生にも心からお礼を申し上げたい。

今回は戦国期の東京湾の制海権をめぐり対立していた小田原北条氏と房総の里見氏の攻防がテーマで、現代語訳の古文書を資料に丁寧な解説が行われた。

小田原北条氏は北条早雲に始まるが、里見氏は上野国の新田氏の分家で、鎌倉公方方として房総に入った。里見氏の初代義実が三浦半島を経て房総に入ったという説は疑わしい。しかし、この伝承の成立そのものが里見氏と三浦半島の密着性を表している。

東京湾交通は北条氏の死線を制しかねないほど重要なもので、領国の東側にある里見氏との関係は無視できないものであった。

当時、東京湾を航行する船に対して海賊行為を働く勢力が存在したという。

大名勢力の支援抜きに商船が東京湾を安全に航行することは難しく、大名権力の支援が必要だった。また北条氏も日常的に房総半島での軍事行動を行っていた。

金沢を本拠とした廻船商人山口氏は里見氏に「海中往行」の許可を申請していた。また里見領国における諸役を免除されており、山口氏が里見氏の「御用」を務めていたことは確実だという。

一方、上総を本拠とする野中氏は、敵対関係にある北条氏と里見氏の領国をまたいで商売を行うという“両属性”を持っていた。また本牧領では年貢の一部を「向地」に差出す「半手」が実施されていた。これらの動きは双方が敵の領国内に「橋頭堡」を設けるという性格を持っていた。当時の東京湾沿岸の村々は、北条・里見両氏に一定の貢納を行って両属関係を築くことによって、辛うじて安定を確保していたのである。

次に紀伊水軍梶原氏の東国下向とその活躍の話に移った。

永禄5年（1562）梶原吉右衛門尉は北条氏の要請により下向した。北条氏は小坪・岩戸の所領を与え里見氏との対決に大きな役割を果たすことを期待したという。梶原氏は現実に里見氏との戦いに活躍し、北条氏にとって不可欠の存在になった。本国はあくまで紀州の梶原氏はことあるごとに「知行所務不足」を申し立て帰国しようとした。

これに対し、北条氏は宥める一方で知行・給付の増額の要求にも低姿勢だったという。

梶原氏は「海賊という芸能」をもって北条氏に仕える身で、真鍋氏はこの「傭兵」的な性格が梶原氏の特殊性であると指摘された。

また、紀州と関東との交流は中世から盛んで梶原氏の役割は重要だという。（伊達記）

アンケート結果

①講演内容評価

たいへん良かった：16名 良かった：5名 普通：なし つまらなかった：なし
(大雪で欠席者が多かったが、出席の半数に近い21名の回答があった。)

②コメント

- ・興味深い話を、時代背景などを含めて分かりやすく説明された (6)
- ・史料の取り扱いが理解に役に立った。
現代語訳があり助かった (3)
- ・「傭兵」梶原氏の話が面白かった (7)
- ・戦国時代の金沢地区、北条氏、里見氏
の状況がよく分かった (5)
- ・半手、半済のこと (タダでは安全保障は得られない)
が面白かった (2)
- ・山口氏の「両属性」を興味深く拝聴した。(1)
- ・商人たちのしたたかな利益追求
の方策などが興味あった (1)



真鍋 淳哉 氏

編集委員会からのお知らせ

重ねて、会報50号記念号の原稿募集！

会報「かねざわ」は8月に50号となります。「何事にも節目を大切にする」「わ”の会、されば会報もということで、「50号記念号」を発行することになりました。ついては会員各位から原稿を募ることになりました。

と、前48号で呼びかけいたしましたが、まだ応募がありません。テーマがないと書きにくいという声も耳にしました。前の10周年記念号の際はテーマを決めたら応募が少なく、テーマ自由として追加すると、たくさんの応募があ

った経由があったのですが…。

そこで、50号に因んで「私の50才の頃」「昭和50年代の事」「1950年代の記憶」「50年前の思い出」…等々、また、紀行文、趣味・最近感動したこと等の随筆など公序良俗に反しない限り全く自由です。

どうぞ気楽に投稿願います。

記

1. 字 数：1000字以内
2. テーマ：自由
3. 締 切：7月15日
4. 方 法：メール；“わ”の会アドレス<yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com>
郵 送；〒236-0016 横浜市金沢区谷津町 65-1-736 大門
手渡し；お知り合いの運営委員、会報編集委員へ

「懐かしの映画」鑑賞録 No.14

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 25 年度第 23 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014. 3. 10〉

ナバロンの要塞 The Guns of Navarone

製作：1961年 アメリカ

上映時間：157分

監督：J・リー・トンプソン

原作：アリスティア・マクリーン

脚色：カール・フォアマン

出演：グレゴリー・ペック、デヴィット・ニーブン、アンソニー・クイン
アンソニー・クエイル、スタンリー・ベイカー、イレーネ・パパス

(あらすじ)

第二次大戦下の 1943 年。イギリス軍の将兵 2000 名が、ギリシャのケロス島で孤立した。軍事的にはあまり重要な拠点ではないが、中立を保っているトルコの目の前にある島である。ドイツはトルコを味方に引き込むため、精鋭部隊をもってケロス島のイギリス軍を全滅させる作戦を準備した。その情報を事前に察知した連合軍は、ケロス島に駆逐艦 10 隻を派遣してイギリスの将兵を救出する作戦を立てた。しかし、隣のナバロン島には最新式の大砲 2 門が設置され、海峡を睨んでいた。連合軍は空爆による破壊作戦を実行しているが、大砲は洞窟の中に置かれているため、犠牲者は増えるだけで破壊は困難である。まさに難攻不落の要塞であった。その頃、ナバロン島の南の崖だけは、400 フィート(約 122m) の

垂直の絶壁になっており、誰も登れないということから、見張りの歩哨がないという情報が地元のレジスタンスから寄せられた。

そこで、ジェンセン准将とフランクリン少佐は、ナバロン島南部の絶壁をよじのぼり潜入し砲台を爆破する計画を立てた。選ばれたのは登山家のマロリー大尉(グレゴリー・ペック)、元ギリシャ軍大佐スタブロス(アンソニー・クイン)、科学者のミラー伍長(デヴィッド・ニーブン)、ナイフの名人ブラウン通信長(スタンリー・ベイカー)、ナバロン島生まれのパパディモス一等兵(ジェームス・ダーレン)の 5 人で、計画者のフランクリン少佐(アンソニー・クエイル)も同行し、6 人がナバロン島に向かって出発した……

(解説)

原作はイギリスの作家アリスティア・マクリーンが 1957 年に発表した戦争小説である。この映画は、選ばれた 6 人の連合軍の将兵が断

崖絶壁をよじ登って、島に潜入し、苦難に耐えながら 2 門の巨砲を爆破するまでをスリルとサスペンスたっぷりにテンポよく描く。た

だ、観客をハラハラ、ドキドキさせるだけでなく、6人の将兵の個性をしっかりと描き分け、優れた人間ドラマに仕上げたところがこの映画の魅力でもある。この映画はエーゲ海のロードス島で撮影されたが、海上のシーンは、巨大なタンクに小船を浮かべるという大

掛かりなセットを作って、暴風雨の威力を伝え、ロケとセット撮影を一体化して迫真力のある冒険映画に仕上げている。この年のアカデミー賞8部門にノミネートされたが、残念ながら「視覚効果賞」を得たのみであった。

平成25年度第24回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.3.24〉

人間の条件 第3部 望郷篇 第4部 戦雲篇

製作：1959年（昭和34年） 東宝 上映時間：176分
監督：小林正樹 原作：五味川純平
脚色：松山善三、小林正樹
出演：（3部、4部）仲代達矢、新珠三千代、南道郎、田中邦衛、佐藤慶

（第1部、第2部のあらすじ）

1943年の満州（現在の東北3州）。国策会社の調査部に勤務する梶（仲代）は同じ会社の同僚の美千子（新珠）と結婚して、老虎嶺鉱山の労務主任として赴任する。梶は前任者の沖島と協力して人道的な方針で労務管理の方式を改めようとする。しかし、日本人の管理者はこれまでのやり方と異なる梶の方式に反発し軋轢が頻発する。そこに軍が抗日地区の農民600名を特殊工人と称して鉱山に送り込んできた。過酷な労働を強いられた特殊工人を梶は許される範囲で人道的な扱いを図るが、それはまた、

日本人現場監督者や憲兵との軋轢を増すばかりである。工人の脱出が続いた。そこで、憲兵は逃げずにいた工人を捕えて、見せしめのために斬首することにした。梶はその場に立ち合わされる。三人まで首を切られた時、梶は憲兵に抗議するが、憲兵は軍刀で梶を切ろうとしたとき、工人は一斉に立ち上がって憲兵を威圧した。憲兵は処刑を中止するが、梶は逮捕され、拷問を受けたうえで、会社から誅首され、直ちに召集を受け、軍隊に送られる。

（第3部、第4部のあらすじ）

厳寒の北満。関東軍の一部隊では梶たち初年兵が連日厳しい訓練を受けている。板内と吉田上等兵（南道郎）はなにかと初年兵を殴った。美千子から中隊長に特殊工人斬首事件での梶の無罪を訴える手紙が来たが、帰って梶の立場を悪くするばかりである。許可されて美千

子が面会に来た。その夜、美千子は消燈ラッパを梶の胸の中で聞いた。行軍が行われ、梶の属する第三班から小原が脱落した。小原は女郎の客引きの真似を吉田から強制された後、便所で首を吊って死んだ。部隊はソ満国境近くの湿地帯に移動した。兄が思想犯のため睨まれている

新城（佐藤慶）と梶は親しくなる。ある夜、野火が起こった。新城は国境線の方向に逃げた。吉田と梶が追い、組み合い、二人は病院に運ばれ、梶は助かるが、吉田は死んだ。

梶は退院後国境線に近い青雲台地に赴任し、そこで影山（佐田啓二）と再会する。影山は少尉に進級し、梶は上等兵になっていた。梶は受け持った初年兵を古参兵の暴力から守ってい

るため、いざこざが絶えない。梶は影山のはからいで、作業中隊に転属となったが、青雲台地に突如攻めてきたソ連軍の攻撃で影山は戦死した。梶は終日、塹壕を掘り続けソ連の戦車攻撃に備えた。間もなくソ連軍の戦車攻撃が始まり、日本軍はひとたまりもなく壊滅した。生き残った梶は戦友を求めて荒野を歩く。

（解説）

『戦争と人間』第3・4部では、憲兵に反抗したために召集猶予の特典をはく奪され、満州の関東軍に送られた梶が、古参兵の執拗ないじめに耐えながら、弱い仲間をかばい、あくまでも自己の信念と主張を貫こうとする。戦争体験を持つ小林監督は「この映画を撮るのは自分し

かない」との信念で『人間の条件』を撮っただけに、優れた反戦映画となった。『人間の条件』は3作とも興業にも成功したが、とくに第3・4部は配給収入2億3479万円を記録する大ヒットとなった。

「浮雲俳句会」抄録 No.25

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

《 春 ; Spring 》

尋常小学校唱歌に「春が来た」がある。♪春が来た。春が来た。どこに来た。山に来た。里に来た。野にも来た。♪……。また旧制中学の英語のリーダーに次の一節があった。

Spring has come. Everything is waking from its long sleep. The sun shines in the blue sky. ……。(春が来た。万物はその長い眠りから覚めた。太陽は大空に輝いている。……)。

ところで、《春; Spring》。俳句では、立春（今年の場合2月4日）から立夏（今年の場合5月5日）の前日までの約3ヶ月間である。

この春の3ヶ月は、三春とって、初春・仲春・晩春に分けられる。「初春」は最初の1ヶ月（おおむね陽暦の2月）で、朝晩はまだ肌寒さはあるものの、梅が咲き始め、次第に日中は暖くなる時期である。更に「仲春」は、陽暦の3月で、すっかり春らしくなり、桃の花が咲き、蝶が菜の花に飛びかい、やがて櫻も咲き初め、一年で一番よい季節となる。更にまた「晩春」は、春爛漫！ 櫻をはじめとして、さまざまな花が咲きみだれ、鳥が鳴き、行楽に気持ちのよい時期となる。

続いて、この春の3ヶ月。三春を代表する先達の秀句を10句選んでおこう。

鎌倉を驚かしたる余寒あり 虚子
うめ一輪一りんほどのあたたかさ 嵐雪

あたたかな雨がふるなり枯葎	子規
白魚のどつと生まるるおぼろかな	一茶
赤い椿白い椿と落ちにけり	碧梧桐
水ぬるむ頃や女のわたし守	蕪村
校塔に鳩多き日や卒業す	草田男
みちのくはわがふるさとよ帰る雁	青邨
行く春や鳥啼き魚の目に泪	芭蕉
ゆさゆさと大枝揺るる櫻かな	鬼城

《76回例会 平成26年1月26日》

〔 秀作 〕

天賞

嘶きて風疼く中寒立馬 とも女

＜寒立馬＞は、青森県下北半島尻尾崎周辺に一年中放牧されている馬のことである。会津の軍用馬が祖先であるともいわれており、厳しい冬にも、耐えられる逞しい体格の馬。年から年中放牧されて、寒気と粗食に耐え、持久力に富むので、軍用馬として重用されてきた。しかし、平成7年には9頭にまで激減した。その後、天然記念物に指定されるなど、多くの保護政策により、50頭までに回復している。

この＜寒立馬＞。凍てつく風を通りこして、零下10度前後の＜風疼く中＞に＜嘶いて＞いるのである。

地賞

脚迅し子を背負ひたる雪女 一紀

叙情詩の典型的な秀吟。しかも、＜雪女＞という妖怪の出現により、叙情性を一段と高めている。

＜雪女＞は、雪の夜に出るといわれる妖怪。雪の夜に白い姿でさまよい歩くので、雪女郎・

＜雪女＞といわれている。ラフカディオ・ハーンの雪女が、ひろくイメージを伝えるのに役立っている。地方によっては、白い美女だったり、老婆だったりする。

いずれにせよ、子育て中の＜子を背負ひたる＞女性には、母親としてのいろんな情念を秘めており、その情念を、＜雪女＞の登場により、一段と高めているのである。

人賞

湯気立てて日高の朝の調教馬 三旦

北海道の＜日高＞地方は、戦後日本の馬産地として知られている。特に、軍用馬と農耕馬の産地として有名であったが、軍用馬や農耕馬の需要の消滅によって衰退した。だがその後再び、全国有数の競走馬の産地として復活。わけてもサラブレットの産地として、世界に通用する地域になった。

その＜日高＞で、掲句にあるように、競走馬の＜調教＞が行われ、オグリキャプやディープインパクトのような名馬になろうと、＜湯気を立てて＞朝の特訓を受けているのだ。

〔 特選 〕

雪達磨並ぶ天気図日本海	一馬	鯉起し大佐渡小佐渡引き寄せて	祥代
日本海白き牙むき雪しまく	勇平	弓なりの僧息白く鐘を撞く	十九
流鏑馬の直線コース息白し	国眼	初春や地蔵の前垂れかはりみし	勝美
平潟の海に漂ふ初氷	好童		

《77回例会 平成26年2月23日》

〔 秀作 〕

天賞

3Dの幾何学模様浅蜷殻 国眼

2次元的視点から、3次元的視点への変化を俳句の世界に取り入れようとするユニークな俳詠。

<3D>は、Three-dimensionalの略語であり、3次元を意味する。最近3Dフォト(3D-Photo・立体写真)・3D映像(3次元映像)・あるいは3D映画などが、登場して、盛んに立体視の世界を展開している。

掲句は、<浅蜷殻>を、3Dで<幾何学模様>に、しかも、立体的に観察しているのだ。従来の2次元の平面的な見方から、3次元の立体的な見方をしている。このことは、俳句の世界でも、俳句を作る媒体が変わることを物語っており、今後の活用に注目してゆきたい。

地賞

爺にんまりバレンタインのチョコレート
とも女

諧謔性・ユーモア溢れる好吟。<バレンタイン>は、バレンタイン・デー(Valentine Day)のこと。バレンタインは270年、異教徒の迫害にあつて、殉死したローマのキリスト教徒。こ

れにより、男女相愛の日とされる2月14日。一度破れた恋も、この日に祈るとまたもとに戻るといふ。

日本でもかなり普及し、夫婦や恋人同士でチョコレートを贈る習慣が、定着してきている。掲句は、このバレンタインデーに、まったく期待もしていなかった<爺>やが、多分、小さなお孫さんからだろうが、思いもかけぬチョコレートをもらい、<にんまり>しているのだ。愉快千番!

人賞

地球儀にソチを見付けし二月かな 一馬

発見と期待に溢れる佳吟。2月7日からロシアのソチ(Sochi)で、冬季オリンピック・パラリンピックが開幕。

まだオリンピック・パラリンピックの始まらない2月初めから、待ち切れず<地球儀>を回して、ソチを発見。しかも、期待に違わず、わが国の選手団は、本番のオリンピックだけでも、8個のメダルを獲得したのである。

〔 特選 〕

相模灘サーファーの群れかげろへり	祥代	深川や江戸の名残の浅蜷飯	好童
あぐらかき浅蜷舌出す澄まし汁	勇平	伸びやかな脚ならびきて浅蜷捕る	十九
八景沖櫓を軋ませて浅蜷舟	岩介	花桃の膨らみたるや稚児の頬	重九

〔 秀作 〕

天賞

春宵や火牛の計の早雲寺 重九

壮大な叙事詩（詩の3大分類の一つ。事実をありのままに述べたもの）。

＜早雲寺＞は、箱根の湯本にある北条早雲の菩提寺。＜火牛の計＞は、北条早雲の執った策略。1495年（明応4年）、当時の小田原城の領主・大森藤頼を、千頭の牛の角に松明をつけて攻撃し、討ち滅ぼした戦法である。

僅か11文字のなかに、五百年余り前の戦国時代における小田原城の城取り物語を詠った、句作力に感服した。

地賞

象の鼻ひたひた濡らす春の海 一馬

横浜の開港を彷彿とさせる佳句。横浜の海岸通りの赤レンガパークと山下公園を結び、象の鼻地区を通って、大栈橋の付け根から、左手方向（東サイド）へ延びている防波堤がある。この防波堤を俯瞰すると、一見象の鼻に似ているところから、通称＜象の鼻＞と呼ばれているところがある。

ここで、象の鼻地区を、概観しておこう。象の鼻地区は、大きく分けて、二つの部分で構成されている。一つは、先程の通称＜象の鼻＞である。二つは、この北側の対岸に造られた「象の鼻パーク」である。当該「象の鼻パーク」は、横浜開港150周年の記念事業として、平成21年に整備されたものである。

その特徴は、満潮時に、海水がそのまま、陸上部分へ打ち寄せられるように整備されていることである。まさに、打ち寄せる＜春の海＞と「象の鼻パーク」とのコラボレーションである。

人賞

奥千本西行庵に春惜しむ 岩介

歌人西行法師を偲び畏敬の念を表する句。西行（1118～90）は、平安末期から鎌倉初期の武士・僧侶・歌人。23歳で出家。出家後は、諸所に草庵をいとなみ、しばしば諸国を巡る旅に出ている。そして「願はくば花の下にて春死なむ そのきさらぎの望月のころ」を辞世の歌として入寂した。享年73歳。

＜西行庵＞は、西行が諸国行脚の途次、しばしば住んでいた住まいの旧跡。近畿地方にも、吉野山の奥の院のほか、京都や高野山などに数カ所あった。そのなかでも、＜奥千本の西行庵＞は、西行が三年間過ごしたという小さな草庵であり、奥千本でも最奥の地にあつて、幽邃の気に満ち、寂しさを歌に託した、西行の想いが伝わってくる。

“とくとくと落つる岩間の苔清水 汲みほすまでもなき住居かな”。

西行庵の近くにある苔清水は、今でも、岩間からとくとくと流れ落ちているという。そのかたわらには、西行を慕っていた芭蕉の句碑もある。

〔 特選 〕

夕闇に寄り添ふ影や春の海 一税
春の海見たくてバスの席替はる 祥代
見霧かす地蔵の眼春の海 国眼
初蝶のひとやすみせし牛の背 十九

のどけしや牛よこたへり飾り棚 勇平
春霞阿蘇へ仔牛を放ちけり 勝美
のどけしや牛の啼き声銜せり とも女

「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.5

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

独自コース 12 番 「水仙咲く花嫁街道」

実施日：平成 26 年 2 月 20 日(木) 曇り **参加者**：18 名 **距離**：約 14 km **標高差**：約 250m

所在地：千葉県南房総市和田町

往 路：京急バス久里浜駅発 7:05⇒東京湾フェリー発-7:20 ⇒金谷港着 8:05 ⇒浜金谷発 8:22
⇒ 和田浦駅着 9:17

コースタイム：駅前で準備体操 スタート 9:30 ⇒ 花嫁街道入口 10:05 ⇒ 経文石 11:05 ⇒
昼食(11:30～11:50) ⇒ 第三展望台 12:30 ⇒ 烏場山 12:40 ⇒ 見晴台(ティ
ータイム 13:45～14:00)⇒ 黒滝 14:35 ⇒ 花園広場 14:50 ⇒ 和田浦駅着
15:25

復 路：和田浦駅発 15:34 発 ⇒ 浜金谷着 16:45 ⇒ フェリー-17:20 発 ⇒ 久里浜港着 18:00

コース解説

その昔、山あいの村から海辺の村へと嫁ぐ花嫁がこの道を歩いたことから、その名がついたのが「花嫁街道」で、現在は、約 4 時間のハイキングコースになっている。コース途中の烏場山は日本の新百名山にも選ばれた眺望の良いビューポイント。見どころは、山道の尾根からみえる山波、遠くにみえる海の風景、まてばしいの巨木。また、15m 落差の黒滝、駅前に鯨の実物大の骨(レプリカ)など。自然風景としては車窓からの菜の花、道端のホトケノザ、水仙、紅梅、白梅 3 分咲ほどの河津桜など。

足揃う花嫁街道春浅し



新日本百名山烏場山山頂で記念撮影



風情のある黒滝

<一口メモ>

新日本百名山：登山家の岩崎元郎が登りやすいという点を加味して選定した百名山。
因みに深田久弥が選定した日本百名山が 52 山含まれている。最低一県一山を選んでいること
から烏場山は千葉県で唯一選ばれた。なお、新百名山の中で烏場山の 267m は一番の低山。

独自コース 13 番「早春の鎌倉衣張山・祇園山」

実施日：平成 26 年 21 月 (金) 晴れのち曇り **参加者**：818 名 (内ビジター 1 名)

距離：10 km 弱 **標高差**：約 110m

所在地：神奈川県逗子市・鎌倉市

集合・解散：JR 逗子駅西口改札口 10 時集合 JR 鎌倉駅 14 時 45 分解散

コースタイム：逗子駅西口 10：00 スタート～岩殿寺観音堂 10：20 (準備体操と撮影)～
法性寺奥の院 11：00～まんだら堂やぐら群 11：35～11：50 (見学)～衣張山頂
上 12：30～13：00 (昼食と撮影)～八雲神社 13：40 (休憩と撮影)～祇園山～
腹切りやぐら 14：30～鎌倉駅 14：45。

コース解説

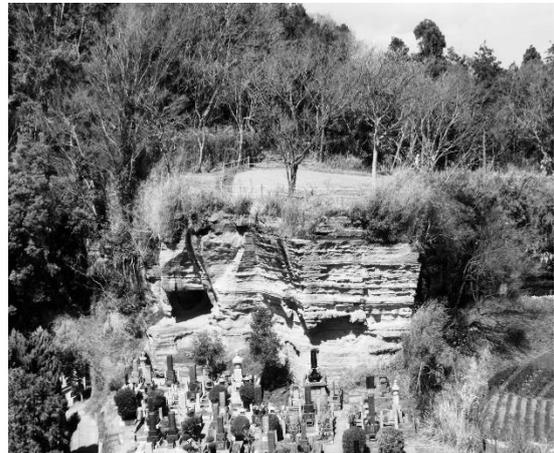
立ち寄り神社：岩殿寺・法性寺・安養院・八雲神社

歴史の絡む場所：まんだら堂やぐら群・大切岸 (石切り場)・名越切通 (鎌倉七口の一つ)
腹切りやぐら (北条高時一族 870 人の墓とされる)

見どころ・花：衣張山からの富士山、鎌倉の海、キブシ・コブシ (モクレン科モクレン属)・
ボケ (木瓜)・沈丁花・紅梅・たちつばすみレ・ヒメオドリコソウ等で野の花
はまだほとんどみられなかった。



名越切通しのまんだら堂やぐら群



法性寺から見た大切岸

あれこれといにしえつたえる古都に春

<一口メモ>

大切岸は仮想敵三浦の侵攻に対する防衛線と考えられていたが、現在では石切場説が主流である。幸運なことに本日、まんだら堂やぐら群 (国指定史跡) 150 穴以上のやぐら群が春の臨時公開日であったことから拝観することが出来、感激でした。

独自コース 14 番「城下町小幡を歩く」

＝ここ群馬で織田信長の系譜が 7 代続いた！＝

実施日：平成 26 年 4 月 10 日 (木) 晴れ **参加者**：21 名 (内ビジター 4 名)

距離：約 5 km

標高差：なし

所在地：群馬県甘楽郡甘楽町

往路：横浜駅 7:05 発～(快速湘南新宿ライン)熊谷駅乗換 高崎駅 9:39 着 高崎駅 9:47 発
(上信電鉄)～上州福島駅 10:15 着

コースタイム：上州福島タクシー～散策開始 桜並木入口 10:35・小幡神社 10:50・中小路
11:20 楽山園・楽山園の外公園 12:30 (昼食) 13:00 せせらぎの路・松井家住宅～上
州福島駅 14:25 着

帰路：上州福島駅 14:29 発～(上信電鉄)高崎駅 14:59 着 高崎駅発 15:14 発～(快
速湘南新宿ライン)横浜駅着 17:30



雄川堰沿いのさくら



武家屋敷が残る

織田系譜足跡残る春小幡

コース解説

織田信雄から7代続いた城下町、近隣には養蚕農家が今も面影を伝えている。滔々と流れる雄川堰を遡ると昔の姿を伝える武家屋敷群、楽山園を中心にした広大な空間が、ゆったりとした安らぎをあたえてくれた。今の季節は桜の花が空を覆い尽くすように花を添え、時間に追われない気持ちの良いウォーキングを楽しむことができた。一番は雄川堰沿いに満開の桜の古木、はらはらと頭上に花びらが舞った。雄川の本流沿い「せせらぎの道」も桜はもちろんダイコンソウなど春の花が溢れていた。

ご存知でしょうか！

小幡藩は織田信長の次男信雄から7代続き、その後は奥平松平家が明治4年の廃藩置県まで治めた。現在、甘楽町は小幡地区の江戸時代の街並みを保存し、雄川堰沿いのさくらを保護維持して、名水流れる織田系譜ゆかりの城下町として「武者行列」などの催しを行っている。なお、小幡地区には、江戸時代初期に織田氏によって造られた藩邸の庭園などを整備したうえで、楽山園「知者ハ水ヲ楽シム、仁者ハ山ヲ楽シム」(国指定名勝、広さ約7000坪)として一般公開している。

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。

小俣 悦男 ○メールアドレス：e-omata@mx2tten.ne.jp ○電話番号：045-782-8147

定例概要に載っている写真は全て“わ”の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで写真が載っています。

「古文書を読む会」からのたより（3）

「古文書を読む会」代表 真田 雅行

前回の小田原地震に続いて、今回は平成 20 年に読んだ 1783 年(天明 3)の浅間山大噴火を取り上げます。

1783（天明 3 年）の浅間山大噴火

浅間山（標高 2568m）は長野・群馬県境にそびえる活火山で、これまででは 1108 年（天仁 1）と 1783 年（天明 3）の噴火が最大といわれるが、被害は後者がはるかに大きい。

1783 年（天明 3）6 月 27 日より軽石・火山灰を噴き出し、7 月 7～8 日に大噴火、北側の上州側山麓の村々は土石なだれで何か村も埋没したり流失したりした。



浅間山大噴火を掘る

特に鎌原（かんばら）村の被害が最も大きく、家は 6 メートルに及ぶ熱泥流の下になり、大多数の村民が死亡した。土石は吾妻川をせき止め、それが決壊

して洪水となり、近郊合計では 1500 人以上の人命を奪った。また大量の火山灰が高崎周辺にいたる地域に降って作物に被害を与えた。成層圏に噴き上げられた火山灰は直射日光の照射を妨げ、その後の世界的な不作の一因になったとみられる。

幕府は勘定吟味役 根岸鎮衛（やすもり） らを遣し、被害状況を視察させて救済対策をたて

た。

末尾の古文書は彼の報告書の一部で、鎌原村では死者は実に 78%に及び、家数 9 3 軒全部流失とある。特に気の毒なのは生き残った夫・妻・子供がいても、流死して家庭内に家族が相揃う者は一人もいなくなったので、名主は生き残り 93 人を同族として、夫が亡くなった妻へは妻を亡くした夫と夫婦にし、子を亡くした者は親を失った子を養子にしたりしたことであろう。当然逆もあったし、同様なことは他村でもあったのではなかろうか。又 1979 年（昭和 54）に始まる鎌原村（群馬県嬭恋村）の発掘調査では、観音堂の石段を上りかけた瞬間に熱泥流にのみ込まれ、力尽きた者の焼死体が収容された。生き埋めとなった遺体が蒸発し、灰に残った人型から石膏で復元されたイタリアのポンペイ火山遺跡と重ね合わせて思わず身震いがした。

（1）都築郡王禅寺村の志村家文書

以下の「読み下し文」は都築郡王禅寺村の志村家文書からの引用の一部である。

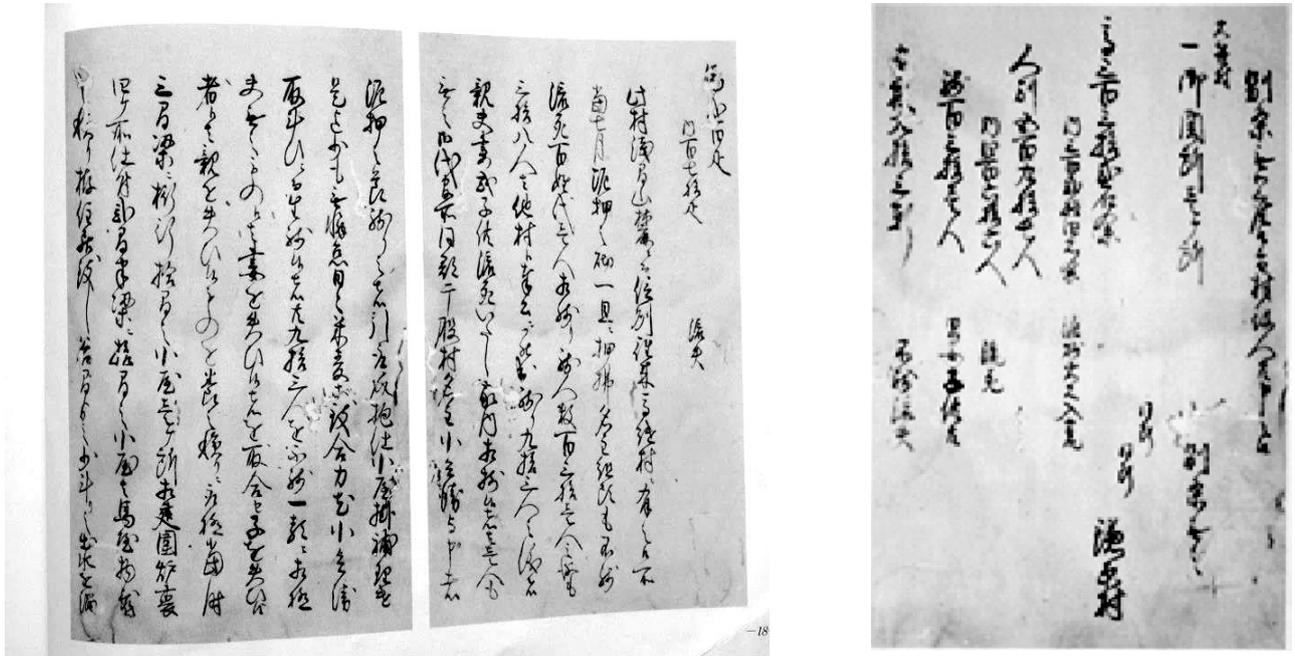
“軽井沢火石降りて 30 軒、余も焼失、碓氷峠の社家は石砂の重みにて 14 件潰れ候由。

浅間山は 4 月 9 日より焼け出し、7 月 3・4 日火石砂吹き上ること百丈余といふ。大石も手まりのごとく、煙の先々石砂雨のごとく、上州碓氷郡・群馬郡・武州榛沢郡の内は、昼夜闇夜のごとくにて、日中にも行燈を灯し物を尋ぬるよし。7 月 5・6 日頃は浅間山鳴ることつよし。土をうごかし、地震のごとく家々戸・障子まで

鳴りわたり、ものすごきこと述べかたし。
 7・8日は別してつよし、されど人民は火石・
 砂など降ることのみ思ふて、湯水押し出すべき
 とはゆめゆめ心づかざれば死人多し。8日4ツ

(朝10時) 頃上州吾妻川通り、鎌原村を初め
 とし川沿いの村々を押し流すこと言の葉に述
 べかたし “

(2) 柏市小笠原直彦氏所蔵書



「読み下し文」
 鎌原村
 高332石余、内324石余泥砂火石入荒
 人別597人 内466人流死
 残131人男女子供共
 家数93軒残らず流失
 馬200疋
 内170疋流失
 此村浅間山山麓にて、信州往来馬継村々にこれ有候所、当7月泥押
 しの砌、一旦に押し払い、名主・組頭残らず流死、百姓代老人あい
 残り、残り人数131人の儀も38人は他村へ奉公に罷り出、残り
 93人の儀は親・夫・妻・或は子供流死いたし、家内相揃う者は一
 人もこれ無く、御代官同郡干股村名主小兵衛と申す者泥押し節、
 残りの者引取り介抱仕り、小屋掛け補理(しつらい)遣わし、是迄
 少しも懈怠無く、日々米・麦等合力(協力)致し、尤(もつとも)
 小兵衛取計にて、生き残り候者共93人を残らず一類に相極(き
 め)、夫無きもの共へは妻を失い候者を取り合わせ、子を失い候者へ
 は親を失い候ものを養いの積りに取極め、3間梁に桁10間の小屋
 1ヶ所相建て、囲炉裏4ヶ所仕付け、2間半梁に10間の小屋は馬
 屋・物置の積りに拵(こし)らえ住居致し、谷間迄の少しばかりの
 出水を香水に仕り……」

行事予定

2014年6月～2014年8月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	6月	7月	8月
学習会	6月14日(土) 金沢CC 13:30～16:00 金沢北条氏① 実泰から実時 東洋大学講師 細川重男氏	7月12日(土)能見台CC 13:30～16:00 金沢北条氏② 実時から顕時 東洋大学講師 細川重男氏	8月2日(土) 県立金沢文庫 9:30～11:30 動乱の金沢 ～南北朝から戦国時代まで～ 金沢文庫学芸課長西岡芳文氏
寺社を巡る会	6月5日(木) 集合：京急YRP野比駅10:00 テーマ：久里浜 訪問先：称名寺、白髭神社、 花の国、伝福寺、ペリー公園	7月3日(木) 集合：京急久里浜駅10:00 テーマ：久里浜・衣笠 訪問先：八幡神社、正業寺、等 覚寺、慈眼寺、満願寺、清雲寺、 近殿神社、満昌寺	8月7日(木) 集合：未定 テーマ：座学 DVD鑑賞(百寺巡礼Ⅷ)
古文書を読む会	9:00～基礎講座東海道中膝栗毛		
	6月12日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 宿村・布川家文書 6月26日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 絵島生島事件	7月10日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 宿村・布川家文書 7月24日(木)金沢公会堂 10:00～12:00 絵島生島事件	8月14日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 宿村・布川家文書 8月28日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 絵島生島事件
ふれあいの道歩こう会	6月5日(予備日6日) 100回=独自コース No.16 入笠山と入笠湿原の花々 長野県 富士見町	7月17・18日 101回=独自コース No.17 戦場ヶ原と切込・刈込湖 栃木県 日光市	休会
懐かしの映画を観る会	6月9日(月)12:10 金沢CC 地下室のメロディ (仏) 望郷 (仏) 6月23日(月)12:10 金沢CC 戦火の馬 (米)	7月14日(月)12:10 金沢CC 武士の一分 (日) 7月28日(月)12:10 金沢CC レ・ミゼラブル (仏)	8月4日(月)12:30 金沢CC 知床慕情 (日) 8月25日(月)12:10 金沢CC あなただけ今晚は (米)
浮雲俳句会	6月1日(日) 11:30～金沢CC 金沢区民俳句大会への参加	7月27日(日)9:30～金沢CC 第81回例会 テーマ 利根川・青鷺	8月31日(日) 9:30～金沢CC 第82回例会 テーマ 天の川・虫
パソコンを使いこなす会	6月3日(火) 金沢CC Internet実用講座 -Google Map-	7月1日(火) 金沢CC Explore実用講座 -ライブラリの機能-	8月5日(火) 金沢CC EXCEL実用講座 -グラフ-
	6月17日(火) 金沢CC Windows実用講座 -Windowsを使いこなす-	7月15日(火) 金沢CC EXCEL実用講座 -カレンダー-	8月19日(火) 金沢CC Internet実用講座 -ネットサービス-
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先： 学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 782-8147 (小俣) 懐かしの映画を観る 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成26(2014)年5月10日
<p>電車の中で本を読む若者を見かけなくなったと思っていたら、1日の読書時間がゼロという大学生が4割を超えたという記事が新聞に載っていました。</p> <p>本好きな年寄りとしては、そんなにスマートフォンが面白いのかと言いたくなります。本を読まないだけでなく買わなくなっているという嘆かわしい時代ですが、“かねざわ”の愛読者には無縁の話だと信じています。(K・D)</p>	発行月	4回(2, 5, 8, 11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 柴崎 幸治 鈴木 秀幸